

「第4回 宮城県総合計画審議会」会議録

日 時：平成27年8月6日（月）午後1時から午後2時30分まで

場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

出席委員：堀切川会長，足立副会長，井上委員，大川口委員，大村委員，川村委員，
西條委員，佐々木委員，竹井委員，舘田委員，針生委員，福嶋委員，松村委員
※計13名出席（2名欠席）

宮 城 県：知事，公営企業管理者，教育長，震災復興・企画部長，環境生活部長，保健福祉部
長，経済商工観光部長，農林水産部長，土木部技監兼次長（技術担当）

事 務 局：震災復興・企画部次長，震災復興・企画部参事兼震災復興政策課長，震災復興政策
課企画・評価専門監，震災復興政策課課長補佐（総括担当），震災復興政策課課長
補佐（班長）

1 開 会（司会：宮城県震災復興・企画部震災復興政策課課長補佐（総括担当））

※司会より，出席者数が報告されるとともに，総合計画審議会条例第6条第2項の規定によ
り，本会議が有効に成立している旨，報告。

2 あいさつ（村井知事）

皆さん，こんにちは。本日は大変お忙しい中，また暑い中，お集まりいただきましてまことにありがとうございます。心より感謝申し上げます。

前回の第3回の審議会では「（仮称）宮城県地方創生総合戦略」の中間案についてご審議いただきまして，委員の皆様からは多くの貴重なご意見をいただいたところでございます。その後，県ではこの総合戦略の中間案について，6月16日から7月6日までパブリックコメントを実施し，県民の皆様からも貴重なご意見やご提案を頂戴いたしました。また，県議会における議論も踏まえまして，本日最終案をご提示申し上げておりますので，委員の皆様にはそれぞれの専門分野の知見をもとに十分ご審議を賜りたいと存じます。

本日は，最終案とあわせて副題の案も提案させていただいております。「復興を未来につなぐ道標（みちしるべ）～宮城のネクスト・ステージを拓（ひら）き，日本のネクスト・スタンダードを創（つく）る～」であります。前回の審議会で堀切川会長からいただきました「ネクスト・スタンダード」という言葉を含めて，今後の方向性を示す内容としております。

宮城県における地方創生の取り組みが復興をさらに加速していくとともに，復興の先にある将来の宮城県のさらなる発展につなげていくというメッセージを込めたものでございます。

本日の審議を経て，今月中旬には本審議会から答申をいただきたいと考えております。県といたしましては，頂戴した答申を踏まえ，来月開催される9月県議会定例会に地方創生総合戦略を議案として提案したいと考えております。

この審議会において総合戦略のご審議をいただくのは本日が最後になりますが，委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。開会に当たっての私の挨拶とさ

させていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議 事

※ 総合計画審議会条例第6条の規定により、ここから会長が議長となって議事が進行された。

(1) 「宮城県地方創生総合戦略」最終案について

(堀切川会長)

それでは、議長を務めさせていただきます。

皆様には、仙台七夕祭り初日でもありお忙しいところ、なおかつ非常にお暑い中、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。

本日の議題は、お手元にお配りしております次第のとおり、宮城県地方創生総合戦略最終案についてでございます。最終案ということもございまして、クールビズで臨むべきところでございますが、ネクタイを締めて、身も心も引き締めて、今回臨んでいるところでございます。

前回の審議会におきましては、総合戦略の中間案についてご審議をいただきました。その後、事務局には中間案に対して県民の皆様からご意見を広く募集するパブリックコメントを6月16日から7月6日まで行っていました。前回の審議会での委員の皆様からいただいたご意見及びパブリックコメントなどでいただいたご意見を踏まえまして、事務局におきまして中間案に手を加えたものを最終案として本日皆様にお配りしているところでございます。

知事のご挨拶にもございましたように、審議会での議論は今回が最後となりますが、本日はこの最終案につきまして皆様のご審議をいただき、当審議会から県への答申内容を固めてまいりたいと思っております。ぜひ皆様の積極的なご議論をお願いしたいと思います。

それでは、まずお配りしている資料に基づきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局より、「資料1～資料3」に基づき説明。

(堀切川会長)

どうもありがとうございました。

それでは、ただいま事務局からご説明のございました宮城県地方創生総合戦略の最終案につきまして、審議を行いたいと思っております。

先ほども申し上げましたが、今回の審議を踏まえまして、審議会としての答申内容をまとめたいと考えております。また、答申の時期でございますが、県議会の議決など、県側の今後の日程も考慮いたしまして、当審議会を代表して私が8月18日に行いたいと考えております。委員の皆様にはあらかじめご承知おきいただければありがたいところであります。

きょうは、知事に最後までいていただくことになっておりますが、公務のご都合上、時間に制約がございますので、ご意見につきましては、誠に申しわけないのでございますが、お一人

3分以内というところを守っていただければ、非常にありがたいというところで、議事の進行にご協力よろしく願いいたします。

毎回作戦を変えておりますが、端から順番作戦を今回はとらず、ご自由に意見を思いついた方からいただければと思っております。ぜひご意見等ございましたら、手を挙げていただきまして、事務局のほうでマイクをお持ちいたしますので、そこからお話しいただければと思いません。ぜひ先陣を切ってどなたか堂々と手を挙げていただけると、非常に助かりますが、いかがでしょうか。では、佐々木委員、お願いいたします。

(佐々木委員)

佐々木です。私たちの出した意見をいろいろと取り入れていただいているなど感じておりますが、先ほど説明いただいた資料1の42ページの「子育て支援の充実」というところで、家庭、地域、学校との協働により、子供の基本的な生活習慣の運動とか、それから子供の活動拠点とか、支え合いを推進する組織体制の確立とか、それから家庭、地域、学校が協働して子供を育てる仕組みづくりを推進するために、その子育てサポーターの人材を育成するとか、それからその下の幼児における学ぶ土台の大切さ、親の学びを支援するための家庭教育支援の充実というところを入れていただいたのですが、これはどちらかと言えば教育委員会の社会教育とか家庭教育班のほうの取り組みなんですね。資料の2-2ですか。「基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」というところに、ほとんどが、子育て支援を進める県民運動というようなところに、これで多分どちらかと言えば福祉部門のイメージしかないんですよ。ここに、ぜひ教育部門の協働して子供を育てる組織体制とか、家庭教育の推進とか、何かそういうニュアンスを一つ入れていただけるといいなと思っているんです。

それから、どうしても私は福祉部門の団体なんですけれども、教育委員会の家庭教育支援チームとか、子育てサポーターリーダーとかをしておりますが、教育部門にもかかわっているのですが、どうしても連携というのができていないんです。それぞれでやっていると、ばらばらなんですね。ですから、できればこれをうまくいくためには、子供にかかわる行政同士の連携と、これを強く打ち出していただきたいと思うんです。それぞれでやっても、なかなか効果はあらわれないと思うんです。連携することによって、取り組みがさらに進むのではないかと思いますので、その辺を少し入れていただければいいかなと思っています。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

時間の都合がございますので、個別にそれぞれ答弁していると時間がかかるものですから、一通り意見をたくさん伺って、後でまとめて重要項目について補足で県のほうから回答していただければと思います。

それでは、次にご意見ございますでしょうか。では、どうぞ。

(福嶋委員)

副題をいただいたんですけども、前回ちょっといい案が思い浮かばなかったので発言しなかったんですけども、「ネクスト・スタンダード」という言葉、「スタンダード」という言葉というのは標準化ということで、ある種型にはめるというイメージがあって、何となく多様性

を認めるような社会のほうがいいのではないかと思います。ある意味では、スタンダードにはまらない人は排除されるようなイメージがあり、いろいろ実は考えてきたんですけど、例えば「ネクスト・クオリティー・オブ・ライフ」とか、そういうことでも堀切川先生が意図されているようなことは伝わるのではないかと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございます。

どうも回答は私がしなければいけないみたいなので、最後のほうにとっておきたいと思いません。ありがとうございます。

そのほかいかがですか、どうぞ、館田委員。

(館田委員)

副題については、最初に5・7・5の形式になっていて、その後に「ネクスト・ステージ」「ネクスト・スタンダード」というちょっと新しい響きとなっており、個人的にはすごくいい感じかなと思っていました。が、スタンダードという言葉については、今福嶋先生に言われて、なるほどそういうとらえ方もあるのかと思いました。ただ、企業やICT業界などの視点から見ると、スタンダードを海外企業にガンガンとられてしまい、日本の業界がどんどん落ち込んでしまっているという背景もあって、先にスタンダードをつくるという響きは、ビジネス的な観点から前向きでいいなと思っていました。ですので、いろいろな見方があるんだというのが今の感想です。

私はICTの業界におりますので、ICTの観点で少し意見をさせていただきます。ICTは今回の基本戦略の中でも重要な位置づけに入っていると思いますし、資料の2-2のほうにも基本目標1の右の図の一番下のところは、ICT利活用で支えていくという形の図になっております。けれども現実には、ICTと、農業とか、医療とか、製造業などの様々な産業の間に少し距離があり、連携や融合がまだまだうまく図られていないところがたくさんあります。それが今の日本の弱みなのかなとも思います。本来ICTというのはICT業界だけがやるものではなく、農業や医療や製造業などの現場が自分たちの仕事の中で展開し、強みを出していくための道具の1つです。例えばアマゾンというのは流通業者がITを使って、全く新しいビジネスモデルをつくり出しています。ですので、宮城県で新しく次のステージに進むというときには、ぜひ、農業や医療従事者やあらゆる現場の人たちが、自分たちでICTを利用して新しいステージに行くんだ、という雰囲気につながればいいなと思います。おそらく具体的なアイデアはこの後どんどん出てくるとしますので、そういうところでご協力できればと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

そのほか、いかがでございましょうか。

(大川口委員)

人口の目標値について今まで議論がなかったと思うので、最後に触れておきたいと思います。

今回の2060年での人口目標184万人という数字そのものについてどう考えるかという点と、その算出の考え方ということなのですが、16ページにケースが3つ示してありまして、仕上がりとして157, 184, 194と3つあります。今の宮城県の人口の全国シェアというのが1.8%台ぐらいなものですから、このケース2でいきますと、2060年時点でも現状のシェア維持という数字の位置づけになりますので、この数字そのものについては、この程度のボリュームでいいんじゃないかなという感じがいたします。

もう一つ、確認になるかもしれないのですが、この184万人を出している根拠なんですね。これについては、資料にもございますとおり、国が日本全体で2060年に1億人を維持するんだという考え方を勘案して、具体的には出生率を引き上げることによって設定した数字になっているのではないかと思います。

つまりは、人口の自然動態ですね。この自然動態に伴う人口の減少幅を縮小させることによって算出したという旨の説明になっているのではないかと思います。確認をしたいのは、この人口動態の要素というのはもう一つ、社会動態があるわけです。人口の移動状況をどのように仮定しているのかというのを確認しておきたいと思います。人口推計を行う場合というのは、社会動態の推計に幾つかの方法があるのですけれども、通常、二つの時点をとって、その二つの時点間での移動状況、移動率をみまして、それが将来においても変わらないという仮定を置くとか、あるいはある一定時点での値を設定しまして、そこに収束していくといった捉え方をするわけです。そういった考え方の方で、今回の総合戦略の場合というのは、いわゆるU・I・Jターンなんかをどんどん推進しまして、県外から県内への移住を促進していくんだということが施策の大きな一つの柱になっています。そういたしますと、こういった政策効果というものを、実はこの数値目標上の社会動態のほうに反映させていくということが求められると思うのですが、そういった意味から言いますと、社会動態についてこういった考え方をとったのか。この点を確認しておきたいと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

そのほかいかがでございましょうか。では、どうぞ。

(井上委員)

宮城大学の井上です。38ページ、39ページあたりの宮城県への移住、定住の流れということで少し関連して申し上げたいのです。この中にございますのは、どちらかというと企業の定着ですとか就業の問題というのが中心になっているかと思いますが、もう一つ、こちらのU・I・Jターンなどで戻ってこられた方に対する生活支援といったようなことが必要ではないかと思えます。特に生涯学習であったり、あるいは文化活動とか、そういったものの支援というものも必要なのではなからうか。そういった意味で、市民施設ですとか、コミュニティ施設などの充実、例えば図書館であったり、文化施設などの充実といったようなことも、少しハードの面でございますけれども、盛り込んでいかれたらどうだろうかと思います。

それともう一つ、(3)あたりで地元大学等の活性化というのがございますけれども、これに絡めまして、先ほどのU・I・Jターンなどの支援も含めまして、地元大学などでの社会人教育といったようなことでの人材の再育成といいますか、再教育といったようなことも盛り込ま

れていかれてはどうかと考えております。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。
そのほかいかがでしょうか。

(足立委員)

子ども・子育て会議の会長をさせていただいています足立です。その関連から2点意見を述べさせていただきます。

1点は、資料2-2の4ページ、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の数値目標というのが左下にございます。育児休業取得率男性4.3%、平成25年、平成31年6.5%となっているのですが、資料の1では県庁の男性職員の取得率、現況は平成25年が4.1%で、目標の平成32年が15%となっております。こちらのほうの数字ですね。平成25年、4.3%は現況の県職員よりも高いということを考えると、平成31年度の数値目標ですけれども、せめて県職員と同じぐらいの15%ぐらいに持ってきてもいいのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

それから、2点目は資料1の42ページ、「(3) 子育て支援の充実」の真ん中からちょっと下ぐらいのところですが、東日本大震災による影響を受けてというところで「心のケア」という言葉が使われております。「心のケア」というのは、本来初期対応のときに使う言葉で、中・長期になった場合「心のケア」というよりも、「子供たちのメンタルヘルス」という言葉に置きかえていただいたほうが適切ではないかと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。
そのほかいかがでしょうか。では、どうぞ、お願いします。

(川村委員)

まず、前回終了後、私のほうから意見出しましたところ、それをほとんど全部埋め込んでいただきましたことに御礼申し上げたいと思います。ですから、私のほうから特にもうこれだけつけ足してということはないというのが基本的なスタンスなんですけれども、あえて1点だけ強調させていただきたいところは、一番最初、1ページ目になるわけですが、先ほどご説明いただきましたとおり、市町村の間、その他での調整ということ、これをやって、最大限の効果を引き出すという趣旨のことを加筆していただきましたけれども、考えてみますと、調整が必要なのは小さいほうだけではなくて、やはり宮城県というのは東北をリードする県ですので、各県の間ですとか、あるいはもっと言えば、国に向けてとか、こういったところでの発言というものも非常に大事になってくるかと思えます。そういう気持ちでいましたところ、きょうの副題のタイトルをいただきまして、日本のネクスト・スタンダードをつくるという言葉が入っておりまして、非常に私のもやもやとして考えていたところ、ぴったりと出していただいたような気がいたしまして、すごくすっきりとした気持ちになっているところがございます。

この「ネクスト・スタンダード」という言葉、非常に響きも良い言葉ですし、かつて「シビ

ルミニマム」という言葉がいろんな政策を考える場で基本になるようなことで、我々の考え方を規定していった部分があるわけですが、それと同じような格好で、このネクスト・スタンダードというのが、会長の意見から宮城県発信ということで全国にあるいは全世界に発信できたら、これはすごく素晴らしいことだなと思います。改正する意見というよりは、補足というような形で一言述べさせていただきます。ありがとうございます。

(堀切川会長)

ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。レディーファーストで。

(西條委員)

ありがとうございます。西條でございます。

前回、本当にとりよめない意見を最後に何か言わないとと思って言わせていただいたら、本当にここに上手に拾い上げていただいて、盛り込んでいただいて本当に感謝しております。

私、今回のこの資料を拝見させていただきまして、48 ページの国の役割への期待という部分におきまして、「制約のある交付金に基づく事業を全国一斉に実施するような進め方には、課題があるものと考えます」ときっぱりと国に物申す姿勢、これは非常に評価したいと考えております。やはりこういう形で明言して盛り込むということは、非常に勇気があることでしたので、評価したいと思います。以上でございます。

(堀切川会長)

ありがとうございます。

それでは、針生委員、お願いいたします。

(針生委員)

針生でございます。31 ページの農林水産の成長化ということで、いろいろ本当に盛り込んでいただいてありがとうございます。

ただ、最後にちょっと思うのは、各市町村もしくは県ごとにおおむね似たような文章になりかけているのではないかなと私は思います。その中に、やはり農業というのは国家、国民の食料の安定的な基盤でありまして、なおかつこれは45年というある意味の中長期的な時間軸でいきますと、家庭の中でも2世代、3世代ぐらいの循環が起きてくるとなりますと、ある意味の本物の味とか、家庭の生活レベルとか多様さがあることによって、本物の食材、ここに書かれております食材王国みやぎの地産地消みたいところで、何が地産地消で何が本物なのかなというところがどンドンぶれていく方向がありますので、ぜひここは横断的に、大変今まで難しかったのですけれども、学校給食の中で安定的な基準的な味、本物の地産地消のものを学校給食の中でしっかり生かせるような、そういう横断的な供給システムによって、当然その材料を安定的に、数万食を日々つくるだけでも1次産業には大変大きなインパクトもありますし、なおかつ今行われている食品の加工技術というのは、極めて三、四十年前に考えられた子供たちに対する安全というクオリティーを異常なぐらい鮮度を保てるような時代になっておりますので、そういう意味においても6次産業のさらなる充実をするためには、食品加工というところ

も一体化して、子供たちに宮城県ってこんなおいしいのがあるんだよねというのを、全ての市町村に安定的に食べていただけるようになりますと、家庭ごとの個人的な家庭環境によって食べられる方と食べられない方が出てくることによって、その後の10年後、20年後には大きな食の選択肢が変わってまいりますので、こういうところを何とか盛り込んでいただくとありがたいかなと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

そのほかいかがでございましょうか。では、こちらから。

(竹井委員)

竹井と申します。最終案を取りまとめていただきましてありがとうございます。私からはコメントといたしまして、2点ございます。

1点目は、何と表現していいのかわからないですけれども、健全な財政を心がけるということと盛り込んでいただけないかということなんですが、これまでの議論の中でいろいろ要望が出てまいりますし、どうしても計画がだんだん肥大化する傾向があるなと思っております。その中で私たち若い世代は、決して要望が羅列されて財政が破綻することを望んでいるわけではなく、ギリシャのような形は決して望んでおりませんので、要望を取り込みながらも健全な財政を図っていく。「入るを量りて出ざるを制す」というところが基本になるかと思うのですけれども、そういった基本的な姿勢が必要ではないかと思ひまして、どこかに盛り込んでいただけるとありがたいなと思っております。

2つ目ですが、A3の最終案の中で、基本目標・具体的施策と右側にございますけれども、「安定した雇用を創出する」の小項目の中に、「起業」という字を入れていただきたいということです。これは私ども起業家支援をメインでやっている事業者なんですけれども、「宮城のネクスト・ステージを拓く」というときに、非常に重要なプレーヤーとなるのは起業家ではないかと、広義の意味での起業家と考えております。その中で、以前の素案ではこのあたりに「起業」という字が入っていたように記憶をしているのですが、また記憶違いかも知れませんが、今回の素案ではちょっとそれが後退してしまったかなというところが少し残念に思っております。本文中であつたり、ほかの資料では起業創業に力を入れていただくということは明記されているのですが、この小項目にも何らかの形で「起業」という字を入れていただけるといいかなと思っております。

今震災後に若い起業家がたくさん出てきておまして、非常に地域をよくしていこうというエネルギーで満ちあふれております。彼らの力を結集して、さらに力強くしていくということが、この宮城県をつくることではないかと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

そのほかいかがでしょうか。どうぞ。

(松村委員)

石巻の松村でございます。まずは最終案をまとめてくださいました宮城県の皆さん、事務局の皆さんに深く敬意を表します。委員の意見を漏れなく取り入れていただいている、非常に丁寧な仕事だと感じました。

今回の宮城県版地方創生総合戦略最終案をまとめていく、このお仕事をしている一つの、もし目的をまとめるとするのであればですが、非常にスピード感を持って、多様な主体から、あるいは多様な世代、地域からの意見を出して、こういうふうには資料をまとめているのですが、それは何でやっているかという、宮城県という県を、住む人あるいは事業者、企業、あるいは学生、次代の子供に「選んでいただく」ためだと思います。今ここまでいろんな意見、多様な方たちから漏れなく出た情報というのは、本当に基礎的な資料、基礎的な情報を満遍なく出したものだと思います。先ほど委員の中でもありましたけれども、網羅的に出しております。これを今後の次のステップとして仕事あるいは政策に落とし込んでいくときに、宮城県ってすごいな、何かチャレンジする人を応援したいんだな、あるいは歓迎するんだなと見せていく。つまり、外側のデザインが、次に非常に重要になるステップだと考えています。まさにいろんな立場からの意見を、こういったいろんな方を集めて出していくことが大事なのだという事は間違いないと思うのですが、そこからそれを何らかのメッセージにする際には、きちんと責任を持ってそれを出せる専門家、それは言葉、コピーライターだったりですか、クリエイティブデザインだったりとかの専門家、そういった方にきちんと相談するということも、単に満遍なく情報を集めるだけではなくて、そこをどう見せるか、デザインですとか、宮城県というブランドをどう高めるかという視点で生かしていただければということをお願いしております。基本的には非常にいい意見をまとめていただいたと考えております。ありがとうございました。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。ご発言されていない方おられましたでしょうか。では、お願いいたします。

(大村委員)

宮城県国際化協会の大村と申します。

この副題の「ネクスト・ステージ」、それから「日本のネクスト・スタンダード」という言葉は、とても格好いいのですけれども、初めて目にした方にとっては、何かとても飛躍したような感じを受けるのではないかと思います。コンセプトとしてはとてもすばらしいものだと思いますので、これについてはもう少し本文の中で丁寧に説明をしたほうがいいのではないかと思います。

それから、先般も総花的に多岐にわたった課題を網羅する計画になったということでお話がありましたけれども、これらのことをこれから具体化していく、それこそが重要なことです。その際に、できればこの本文の中では、市町村という言葉でくくりにされていますけれども、宮城県内35の市町村、それぞれ特徴がありますので、今後これを遂行するに当たっては、ぜひ県の皆様には一つ一つの市町村を丁寧に見て、その情報をきちんと集積して、そしてコーディ

ネーターというよりはファシリテーター、うまく引き出しつないでいくというような姿勢で、この戦略を進めていただけたらと思います。以上です。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

たくさんの委員の方からたくさん新しいコメントもいただきましたが、私もびっくりしたんですけれども、前回いただいた委員の皆様のご意見等がほとんど反映されていて、それで今回非常にわかりやすくなったと個人的には感じております。さまざまなご意見やご提案、ご質問をいただきましたので、ここでまとめて県のほうから、忘れたところは忘れていただいても結構ですが、答えられる項目について、回答等をしていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(事務局)

まずは、人口動態の関係でございます。先ほど大川口委員からご質問がございましたので、簡単にご説明させていただきます。

お話しございましたとおり、自然動態と社会動態と合わせて推計させていただいております。自然動態につきましては、出生率が1.4から1.8、将来的に2.07まで上がるという国の想定の出産率を勘案しまして、宮城県も出生率が上昇していく前提で推計させていただいております。

あわせて、社会増減の関係でございます。これにつきましては、過去の純移動率というものを出しまして、それに一定の前提を加えまして、移動率がある程度縮小していくという設定をしまして、推計してございます。

あと、社会増減全体につきましては、将来的に宮城県の社会動態、転入に転じるという前提を置きまして、推計させていただいたところでございます。私からは以上でございます。

(堀切川会長)

ありがとうございます。

多分そのほか、かなり具体的なお提案もいただきましたので、それについては書き込みしやすいご提案が多かったなと私は思っておりますので、ぜひ県のほうでは前向きに、よりよい案になるように書き込みをしていただければありがたいなと思っております。

個人的に福嶋委員からのご質問、県が答えるべきところでございますが、「ネクスト・スタンダード」問題につきましては、私のほうから少しご説明させてもらえればと思います。

福嶋委員がご懸念されているとおり、実は「スタンダード」というのは学問の世界、学会でいくと、かなりもうある型にはめたものを言うので、JISの工業規格もスタンダードですので、もうそれ以外はだめというイメージで確かに受けとめられやすい言葉ではあるのですけれども、私のイメージはちょっと違ってまして、「ネクスト・スタンダード」というのは、今のスタンダードの枠にとらわれないで、全く新しい政策、施策、事業を進めていくやり方が、将来ほかの都道府県で気がついたら、宮城のやり方は当たり前だったなと、他に波及していけるようなものになっていけばいいのかなというのが私の希望です。

各都道府県でそれぞれの地方創生の案をお作りになっておられるんだろうと思うのですけれども、その結果としては多分総花的になって、大きな違いというのはなかなか難しい、地域性

はいっぱい書いてあるのでしょうかけれども、似たようなところがあちこち出てくるのかなと思います。

では、宮城の宮城らしさはどこにあるかというので私自身非常に強く感じているのは、今回資料の中にもありますが、重要項目については全て数値目標が書かれています。正確に県の難しい言葉を使うと、重要業績評価指数、KPIというそうなのですが、多分この数値目標の項目のどれを選ぶかで、その数字をどういうふうに設定するかというのは、非常に悩まれたんだらうと思うのですけれども、この数値成果目標を設定して、政策、施策、事業に取り組むという、この姿勢は多分非常に珍しい取り組み方だと個人的には思っています。今までも宮城県では行政評価で数値目標を全部出しておられますし、震災以降、震災復興のためのさまざまな政策、施策、事業につきましても、緊急に数値目標を全部出されて、それを見ながらやってこられたということで、実はあれで県職員の皆様も県民の皆様も自分と直接関係ない部分についても、今どのくらい達成されているか、どこが足りないかというのを、共通理解で私は進んできたんだと思っています。そういう意味で、この数値目標設定というのは、震災復興でも非常に役に立ったんですけれど、数少ない私の知識では、他の都道府県ではなかなかここまで踏み込んだ数値設定されていないような気がしています。

そういう意味で、こういう数値目標を出すということで、県民の皆様もそこに、ゴールに向かって今動いているんだという理解ができる、そのやり方がこのキャッチフレーズに表現されればありがたいなと思っていたんですけれども、そういう目で見ますと、「復興を未来につなぐ道標」という、この「道標」というのがまさにそれぞれの重要項目の数値目標が書いてありますので、県民の皆さんがいずれあそこに行けると。あそこになる地域をつくっていこうという意味で、非常に明確な目標設定ができています。このやり方自体が日本の「ネクスト・スタンダード」になるのかなというのが私の感覚でございます。

そういう意味で、先ほどもご意見ございましたが、本文の中でも確かに少しそこを書き込んで、宮城のやり方は全ての重要項目を、数値目標を設定して取り組むんだと。ある意味、宮城県では今まで常識だったかもしれないのですが、国に出したり他県に見てもらうときには、宮城らしさはここにもあるぞというのを最初のほうに少し書き込みされたほうが、そこが明確になるかなと思ったところであります。

ちなみに、最初の5、7、5は非常にいいなと思っておりまして、後ろのほうがあるおかげで、単なる交通安全標語みたいにはなっていないというところが個人的にはよかったなと思っています。よく見ると、一番最後の「創る」が創生の創になっていて、地方創生の創がちゃんと生きているというあたりが親父ギャグではありませんが、非常に志がはっきりしているなど私は感じたところでございます。

多分福嶋委員おっしゃられていた「ネクスト・クオリティー・オブ・ライフ」という非常にいい言葉で、いずれ将来、非常にいいクオリティーで我々の生活がこの宮城の地で当たり前になっていくといえますか、そういうところをやっていくんだということで、量だけではなくて、数値目標というのは量に陥りがちですけれども、質が結果的に高まるんだと、そういう意識は忘れないようにしないといけないなと思った次第です。

何となく政治家的なコメントになってしまいましたが、個人的にはこの数値目標を全部上げてやるというのは、他の都道府県では多分できない。私は宮城の強みだと個人的には思っているところであります。

多分私の予想では言い足りない方がおられると思われまので、どうしても言い足りないことがあったという場合は、貴重な時間ですので、ぜひ追加のご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

どうも皆さん言い終わった感じでございます。ありがとうございました。ご協力ありがとうございます。

それでは、このあたりで締めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、最後に村井知事より委員の皆様からのご意見に対しましての一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

(村井知事)

皆様、どうもありがとうございました。委員にご就任いただいたのが1月でございましたので、半年以上、委員としてお務めいただきました。この間4回、この会議を開いていただきましたが、当然この会議だけではなくて、ご自宅あるいは職場において資料等を読み込んでいただいて、この会に臨んでいただいたものと思っております。きょうも最後のご意見を賜りましたが、もったもなご意見ばかりでございます。本当にありがとうございました。

この地方創生は何としても成し遂げなければならないと思っております。この戦略をつくって、計画をつくって、それで終わりではなくて、これを実現していかなければならないわけでございますので、絵に描いた餅になったと言われることのないようにしてまいりたいと思っております。これからも皆様方には大所高所からご指摘いただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、答申は先ほど会長から、8月18日というお話でございました。きょう賜りました意見をまた事務局のほうで手直しいたしまして、会長にご指導いただいて、最終的にご答申をいただきたいと思っておりますので、堀切川会長におかれましては最後までよろしくお願い申し上げます。どうかよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(堀切川会長)

ありがとうございました。

それでは、総合戦略の案に関する議論は一応ここで終了させていただきまして、当審議会から知事への答申内容をまとめたいと思います。

答申内容は、本日お配りしている総合戦略の最終案をもとに、本日貴重なご意見をたくさんいただきましたので、それをもとに取りまとめたいと考えておりますけれど、時間の都合もございまして、本日皆様からいただいたご意見を踏まえた修正につきましては、事務局と私のほうにご一任していただければと思います。それでよろしいでしょうか。ありがとうございました。結構厳しい目で判断しますので、流されないようにしたいと思います。

(2) その他

(堀切川会長)

それでは、次に事務局から今後の予定につきましてご説明いただければと思います。よろしくお願いたします。

(事務局)

事務局より、「資料4」に基づき説明。

(堀切川会長)

どうもありがとうございました。

ただいま事務局からご説明いただきましたとおり、8月18日に私から知事に答申させていただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。

一番最後になりましたが、私からも一言皆様に御礼申し上げたいと思います。

思い起こせば1月からでございますが、4回にわたりまして開催してまいりましたこの宮城の地方創生に関する審議は、本日が最後となります。各委員の皆様には、それぞれのご専門の立場からさまざまなご意見をいただき、議事にご協力いただきました。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げたいと思います。

半年強という非常にタイトなスケジュールの中で、毎回多くの委員にご出席いただき、極めて貴重なご意見をたくさんいただいて、それをもとにブラッシュアップして、この最終案までたどり着いてきたなと思っております。

この総合戦略の基本姿勢にもございますように、現在の宮城県にとっての最優先課題は震災からの復興であります。私も含め、各委員がそれぞれの分野で震災から得た教訓を踏まえまして、宮城にいる私たちが日本の地方創生において数値目標を明確にした上で取り組むという意味でのネクスト・スタンダードを拓き、その姿を全国に胸を張って見せていければいいなど、そういう時代が来るといいなと思っているところでございます。そういう意味では、まさに「復興を未来につなぐ道標」という、そして「宮城のネクスト・ステージを拓き、日本のネクスト・スタンダードを創る」という、この意気込みでこの総合戦略を着実に実行していった結果として、将来50年後の宮城の未来に対して責任を果たしていくことにつながれば、非常にありがたいと思っているところでございます。私のほうからは以上でございます。ありがとうございました。

4. 閉 会